

感染症発生動向調査事業における宮崎県の患者発生状況 —平成 23 年(2011 年)—

境田昌江 三浦美穂¹⁾ 吉野修司¹⁾ 大浦裕子¹⁾ 古家隆

Summary of the 2011 Annual Report According to the National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases in Miyazaki Prefecture.

Masae SAKAIDA, Miho MIURA, Shuji YOSHINO, Yuko OURA, Takashi FURUIE

Abstract

In the Infectious Disease Surveillance System of Japan, the continuous periodic survey of infectious diseases of Miyazaki prefecture has been carried out since 1999, as being one of the members of that system.

The information of infectious diseases obtained from this system (85 hospitals in the prefecture are included) mentioned above is mainly for pediatric field and has been greatly of use for citizen and medical staff in respect to preventing communicable diseases from spreading in their inhabiting areas or keeping their public health in good shape, by publishing weekly and monthly compendium.

The incidence of infectious diseases assigned by the law of this prefecture, summarized for 2011, has reported this time.

Overall, one case of Chikungunya fever was reported, and this case was the first report in Miyazaki prefecture. This case was considered to have gotten sick in a foreign country. This disease was added to the disease for total grasp from February 1, 2011. As to Acquired immunodeficiency syndrome, there were many reports of most, since 1999.

The number of patients with Erythema infectiosum was larger than the previous year and ordinary years.

Key words: Infections Disease Surveillance System, Miyazaki , Chikungunya fever, Acquired immunodeficiency syndrome, Erythema infectiosum

はじめに

当所では、平成 11 年より宮崎県感染症情報センターとして、感染症発生動向調査事業に基づいて感染症情報の収集と解析を行ってきた。解析した情報は週報や月報として医療機関や県民に還元し、感染症の拡大防止や公衆衛生の向上に努めている。

今回、宮崎県における平成 23 年(2011 年)の患者発生状況をまとめたので報告する。

調査方法

1. 対象疾患及び定点医療機関

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、感染症法)」で定められた 105 疾患を調査対象とした。

定点医療機関は、感染症発生動向調査事業実施要領に基づき選定した(Table 1)。

2. 調査期間

全数把握対象疾患については平成 23 年 1 月 1 日から 12 月 31 日まで、定点把握対象疾患については平成 23 年 1 週から 52 週まで、インフルエンザについては平成 23/24 年シーズンの平成 23 年 41 週から平成 24 年 14 週までをそれぞれ調査期間とし、いずれの疾患も報告日をもとに集計した。

結果

1. 全数把握対象疾患の発生状況

1)一類感染症

報告はなかった。

2)二類感染症

結核 261 例が報告された。

a)結核 Tuberculosis

報告数は 261 例で、前年の約 1.3 倍であった。肺結核が 125 例、その他の結核(結核性胸膜炎、腸結核、結核性リンパ節炎等)が 44 例、肺結核及びその他の結核が 7 例、疑似症患者が 22 例、無症状病原体保有者が 63 例であった。宮崎市(106 例)、都城(47 例)、延岡(31 例)、高鍋(29 例)保健所からの報告が多かった。男性が 148 例、女性が 113 例で、60 歳以上が約 7 割と高齢者の割合が高い。

3)三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症 72 例が報告された。

a)腸管出血性大腸菌感染症

Enterohemorrhagic *Escherichia coli* infection

報告数は 72 例で、前年の約 1.4 倍(去年は 51 例)であった。集団感染事例は 2 件で、都城・日南(各 1 件)保健所管内での発生であった。患者が 28 例(うち HUS 発症 1 例)、無症状病原体保有者が 44 例であった。O 血清型別では、O157 が 20 例、O26 が 18 例、O91 が 7 例と多かった。都城(26 例)、宮崎市・日南(各 15 例)保健所からの報告が多かった。年齢別では、10 歳未満の報告が 30 例(全体の約 4 割)と多く、発生月では 7、8 月に約 4 割が報告されているが、年間を通じて報告があった。

4)四類感染症

A 型肝炎 1 例、チクングニア熱 1 例、つつが虫病 26 例、日本紅斑熱 4 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 1 例、レプトスピラ症 4 例が報告された。

a)A 型肝炎 Hepatitis A

報告数は 1 例で、延岡保健所からの報告であった。60 歳代の男性で、経口感染。全身倦怠感、発熱、肝機能異常等がみられ、IgM 抗体が検出された。

b)チクングニア熱 Chikungunya fever

報告数は 1 例で、宮崎市保健所からの報告であった。インドネシアに渡航歴のある 20 歳代の女

性で、発熱、関節痛、発しん、全身倦怠感等がみられた。平成 23 年 2 月 1 日から全数把握対象疾患に追加され、全国では 10 例の報告があった。

c)つつが虫病

Scrub typhus (Tsutsugamushi disease)

報告数は 26 例で、小林(12 例)、宮崎市(6 例)保健所からの報告が多かった。季節的には例年どおり冬季に多発した。男性が 17 例、女性が 9 例で、60 歳以上が 14 例と全体の約半数を占めた。野外作業中による感染が多く、主な症状として頭痛、発熱、発疹、刺し口などがみられた。痂皮からの病原体検出やペア血清での抗体価の有意な上昇等により確認された。

d)日本紅斑熱 Japanese spotted fever

報告数は 4 例で、宮崎市(2 例)、都城・日南(各 1 例)保健所からの報告であった。発生月は 5 月、7 月、10 月、11 月にそれぞれ 1 例であった。全て男性で、60 歳代 3 例、80 歳代 1 例であった。主な症状として発熱、刺し口、発疹等がみられた。

e)マラリア Malaria

報告数は 1 例で、三日熱であった。宮崎市保健所からの報告で、30 歳代の男性で海外(ウガンダ)での感染。主な症状として発熱、関節痛、脾腫、血小板減少等がみられた。

f)レジオネラ症 Legionellosis

報告数は 1 例で、肺炎型であった。宮崎市保健所からの報告で、50 歳代の男性であった。主な症状として発熱、腹痛、肺炎等がみられた。

g)レプトスピラ症 Leptospirosis

報告数は 4 例で、宮崎市保健所からの報告であった。男性 3 例、女性 1 例で、60 歳代が 3 例、50 歳代が 1 例であった。主な症状として発熱、筋肉痛、結膜充血等がみられた。

5)五類感染症

アメーバ赤痢 9 例、ウイルス性肝炎 5 例、急性脳炎 7 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 12 例、髄膜炎菌性髄膜炎 2 例、梅毒 8 例、破傷風 9 例、風しん 1 例、麻しん 1 例が報告された。

a)アメーバ赤痢 Amebic dysentery

報告数は 9 例で、腸管アメーバ症が 7 例、腸管

外アメーバ症が1例、腸管及び腸管外アメーバ症が1例であった。宮崎市(8例)、日南(1例)保健所からの報告で、全て男性であった。40歳代が3例、50歳代・60歳代が各2例、30歳代・70歳代が各1例で、主な症状として下痢、発熱等がみられた。

b) ウイルス性肝炎 Viral hepatitis

報告数は5例で、全てB型肝炎ウイルスが原因であった。宮崎市(4例)、延岡(1例)保健所からの報告で、男性が3例、女性が2例であった。40歳代が2例、10歳代・20歳代・30歳代が各1例で、主な症状として発熱、肝機能異常、全身倦怠感等がみられた。IgM-HBC抗体が検出された。

c) 急性脳炎 Acute encephalitis

報告数は7例で、宮崎市(5例)、都城・延岡(各1例)保健所からの報告であった。男子4例、女子3例で、0歳(2ヶ月)が2例、1歳から5歳が4例、10歳から14歳が1例であった。原因病原体はインフルエンザウイルスAH1pdm09が2例、RSウイルス及びインフルエンザ疑い・マイコプラズマ疑いが各1例、不明が3例であった。主な症状として発熱、痙攣、意識障害等がみられた。

d) クロイツフェルト・ヤコブ病

Creutzfeldt-Jakob disease

報告数は1例で、古典型クロイツフェルト・ヤコブ病であった。宮崎市保健所からの報告で、60歳代の男性であった。主な症状として進行性認知症、ミオクローヌス、精神・知能障害等がみられた。

e) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

Severe invasive streptococcal infections

報告数は1例で、宮崎市保健所からの報告であった。50歳代の女性で、血清群はA群であった。中耳炎が原因と推定され、主な症状としてショック、急性呼吸窮迫症候群、DIC等がみられ、発症当日に死亡した。

f) 後天性免疫不全症候群

Acquired immunodeficiency syndrome

報告数は12例で、平成11年以降最も多かった。AIDSが5例、無症候性キャリアが6例、その他(指標疾患以外の発症(腸管外アメーバ症))1例であった。宮崎市(8例)、延岡(3例)、日向(1例)保健所か

らの報告で、すべて男性であった。30歳代が5例、20歳代が3例、50歳代が2例、40歳代と70歳代が各1例で、感染地域は全て国内、感染経路は性的接触が11例(同性間7例、異性間1例、両方2例、不明1例)、不明が1例であった。

g) 髄膜炎菌性髄膜炎 Meningococcal meningitis

報告数は2例で、平成19年以来4年ぶりの報告であった。宮崎市・小林(各1例)保健所からの報告で10歳代の男子と60歳代の女性であった。高校の寮での集団感染事例で、10歳代の男子が発症当日に死亡した(血清群はB群)。主な症状として発熱、点状出血、電撃型紫斑等がみられた。

h) 梅毒 Syphilis

報告数は8例で、早期顕症I期・早期顕症II期が各3例、晩期顕症が1例、無症状病原体保有者が1例であった。宮崎市(4例)、小林(2例)、都城・高千穂(各1例)保健所からの報告で、男性が7例、女性が1例であった。30歳代が3例、40歳代が2例、20歳代・50歳代・60歳代が各1例で、感染地域は全て国内、感染経路は性的接触が6例(異性間4例、不明2例)、不明が2例であった。主な症状として梅毒性バラ疹、ゴム腫、硬性下疳等がみられた。

i) 破傷風 Tetanus

報告数は9例で、平成11年以降最も多かった。宮崎市(6例)、都城(2例)、中央(1例)保健所からの報告で、男性8例、女性1例であった。70歳以上が6例、60歳代が2例、50歳代が1例と高齢者の感染が多い。創傷による感染が4例であった。主な症状として筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、強直性けいれん等がみられた。

j) 風しん Rubella

報告数は1例で、臨床診断例であった。30歳代の女性で日南保健所からの報告であった。症状は発しん、リンパ節腫脹、関節痛・関節炎がみられ、IgM抗体が検出された。ワクチン接種歴は不明であった。

k) 麻しん Measles

報告数は1例で、修飾麻しん(検査診断例)であった。1歳の女児で宮崎市保健所からの報告であった。症状は発熱、発疹、中耳炎がみられ、ワクチンは1歳時に1回接種済みであった。

2. 定点把握対象疾患の発生状況

1) インフルエンザ及び小児科対象疾患

報告総数は 69,989 人(定点あたり 1732.9)で、前年の 103%、過去 5 年間の平均値(以後例年と表記)の 110%、全国の 158%と多かった。

前年との比較では、伝染性紅斑が 6.3 倍、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とヘルパンギーナが 1.8 倍、手足口病と咽頭結膜熱が 1.5~1.4 倍と多く、インフルエンザ、流行性耳下腺炎と突発性発疹がほぼ同数、水痘、RS ウイルス感染症、感染性胃腸炎が 9 割から 8 割、百日咳が 4 割と少なかった。

例年との比較では、伝染性紅斑が 5.3 倍、手足口病が 1.9 倍、ヘルパンギーナ、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性性耳下腺炎、咽頭結膜熱が 1.6 倍~1.2 倍と多く、水痘、突発性発疹がほぼ同数、インフルエンザ、感染性胃腸炎が 9 割、百日咳が 1 割と少なかった。

全国との比較では、RS ウイルス感染症、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎が 2.7~2.5 倍、ヘルパンギーナが 2.1 倍、突発性発疹、水痘、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が 1.9~1.7 倍、手足口病が 1.4 倍と多く、インフルエンザはほぼ同数、百日咳が 3 割であった。

各疾患の発生状況の概要を Table2 に、経時的発生状況を Fig.1 に示した。その概略は以下のとおりであった。

a) インフルエンザ Influenza

2011/2012 年シーズンの報告総数は、19,511 人(定点当たり 330.7)で、前シーズン及び全国とほぼ同程度、例年の 9 割であった。流行の時期は例年通りで、2012 年第 3 週(25.8)に流行発生注意報が発令され、翌週の第 4 週(38.5)には流行警報が発令された。今シーズンの流行の中心となったウイルスは A 香港型(AH3)で、後半は B 型による患者も確認された。保健所別では小林(440.8)、都城(384.2)、宮崎市(371.3)保健所からの報告が多く、0-5 歳が 39%、6-9 歳が 26%、10-14 歳が 17%、15-19 歳が 3%、20 歳以上が 15%を占めた。

b) RS ウイルス感染症

Respiratory syncytial virus infection

報告総数は 2,202 人(定点あたり 61.2)で、前年の 8 割、例年の 1.4 倍、全国の 2.7 倍であった。

日向(178.8)、延岡(92.0)、高鍋(68.8)保健所からの報告が多く、年齢別では 1 歳が最も多く全体の約 4 割、2 歳以下で約 9 割を占めた。

c) 咽頭結膜熱 Pharyngoconjunctival fever

報告総数は 1,311 人(定点あたり 36.4)で、前年の 1.4 倍、例年の 1.2 倍、全国の 1.7 倍と多かった。延岡(81.5)、日南(80.7)、日向(59.3)保健所からの報告が多く、1 歳から 4 歳で約 7 割を占めた。

d) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

Group A streptococcal pharyngitis

報告総数は 5,101 人(定点あたり 141.7)で、前年の 1.8 倍、例年の 1.3 倍、全国の 1.7 倍と多かった。延岡(423.3)、日南(207.3)、中央(174.0)保健所からの報告が多く、3 歳から 7 歳で全体の約 7 割を占めた。

e) 感染性胃腸炎 Infectious gastroenteritis

報告総数は 19,295 人(定点あたり 536.0)で、前年の 8 割、例年の 9 割、全国の 1.7 倍であった。小林(1044.3)、日南(720.0)、都城(605.2)保健所からの報告が多く、1 歳から 3 歳で約 4 割を占めた。

f) 水痘 Chickenpox

報告総数は 5,059 人(定点あたり 140.5)で、前年の 9 割、例年とほぼ同数、全国の 1.8 倍であった。延岡(227.5)、宮崎市(148.0)、高鍋(146.3)保健所からの報告が多く、1 歳から 4 歳で全体の約 8 割を占めた。

g) 手足口病 Hand, foot and mouth disease

報告総数は 5,563 人(定点当たり 154.5)で、前年の 1.5 倍、例年の 1.9 倍、全国の 1.4 倍と多かった。第 25 週において流行警報開始基準値を超過し、6 月下旬に流行警報が発令された。保健所別では、延岡(240.3)、中央(189.0)、日向(174.3)保健所からの報告が多く、1 歳から 3 歳で全体の約 7 割を占めた。

h) 伝染性紅斑 Erythema infectiosum

報告総数は 2,626 人(定点あたり 72.9)で、前年の 6.3 倍、例年の 5.4 倍、全国の 2.6 倍と非常に多かった。前年(2010 年)は 12 月下旬にピークを迎え、引き続き 2011 年に入り徐々に患者数が増加した。第 8 週において流行警報開始基準値を超過し、3 月上旬に流行警報が発令された。その後第 25 週でピークを迎え徐々に減少した。第 36 週

において終息基準値を下回り警報が解除となった。延岡(116.8), 高鍋(103.8), 宮崎市(88.1)保健所からの報告が多く, 3歳から6歳で全体の約6割を占めた。

i) 突発性発しん Exanthem subitum

報告総数は2,067人(定点あたり57.4)で, 前年及び例年とほぼ同数, 全国の2倍であった。延岡(74.0), 日南(64.7), 都城(63.2)保健所からの報告が多かった。6ヵ月から1歳で全体の約9割を占めた。

j) 百日咳 Pertussis

報告総数は17人(定点あたり0.47)で, 前年の4割, 例年の1割, 全国の3割と少なかった。都城(1.7)保健所からの報告が多く, 10歳未満が全体の約7割を占めた。

k) ヘルパンギーナ Herpangina

報告総数は3,350人(定点あたり93.1)で, 前年の1.8倍, 例年の1.6倍, 全国の2.1倍と多かった。第26週において流行警報開始基準値を超過し, 7月上旬に流行警報が発令された。延岡(169.8), 小林(123.3), 日南(120.3)保健所からの報告が多く, 1歳が最も多く全体の約3割, 6ヵ月から3歳で約8割を占めた。

l) 流行性耳下腺炎 Mumps

報告総数は3,887人(定点あたり108.0)で, 前年とほぼ同数, 例年の1.3倍, 全国の2.5倍であった。日南(281.3), 宮崎市(180.1), 中央(148.0)保健所からの報告が多く, 2歳から6歳で全体の約7割を占めた。

2) 眼科及び基幹定点報告疾患

眼科対象疾患は流行性角結膜炎のみ報告された。報告総数は726人(定点あたり121.0)で, 前年の75%, 例年の117%, 全国の316%であった。

基幹定点把握対象疾患の報告総数は98人(定点あたり14.0)で, 前年の338%, 例年の113%, 全国の34%であった。

a) 急性出血性結膜炎

Acute hemorrhagic conjunctivitis

報告はなかった。

b) 流行性角結膜炎

Epidemic keratoconjunctivitis

報告総数は726人(定点あたり121.0)で, 前年

の8割, 例年の1.2倍, 全国の3.8倍であった。20歳代から40歳代で全体の約半数, 5歳以下が約2割を占めた。

c) 細菌性髄膜炎 Bacterial meningitis

報告総数は3人(定点あたり0.43)で, 前年の8割, 例年の3割, 全国の4割と少なかった。宮崎市(2.0), 日南(1.0)保健所からの報告で, 0歳が2人, 70歳以上が1人であった。原因菌はB群溶血性連鎖球菌が2人, *Staphylococcus epidermidis*が1人であった。

d) 無菌性髄膜炎 Aseptic meningitis

報告総数は15人(定点あたり2.1)で, 前年の1.2倍, 例年の約半数, 全国と同程度であった。宮崎市(6.0), 延岡・日南(各4.0), 高鍋(1.0)保健所からの報告で, 0歳が10人と最も多く, 1-4歳・5-9歳がそれぞれ2人, 70歳以上が1人であった。

e) マイコプラズマ肺炎

Mycoplasmal pneumonia

報告総数は69人(定点あたり9.9)で, 前年の約14倍, 例年の1.6倍, 全国の約3割であった。延岡(33.0), 都城(17.0)保健所からの報告が多く5-9歳が全体の約4割, 1-4歳が約3割を占めた。

f) クラミジア肺炎 Chlamydial pneumonia

報告総数は11人(定点あたり1.6)で, 前年の1.6倍, 例年の1.7倍, 全国の1.1倍であった。高鍋(11.0)保健所からの報告で, 1-4歳が3人, 5-9歳が2人, 10-14歳が1人, 60歳以上が5人であった。

3) 月報告対象疾患

性感染症の報告総数は532人(定点あたり40.9)で, 前年の93%, 例年の77%, 全国の80%と少なかった。

薬剤耐性菌感染症の報告総数は425人(定点あたり60.7)で, 前年の95%, 例年の94%, 全国とはほぼ同じであった。

a) 性器クラミジア感染症

Genital chlamydial infection

報告総数は314人(定点あたり24.2)で, 前年とほぼ同数, 例年の8割, 全国の9割であった。日向(50.0), 延岡(33.5), 都城(29.5)保健所からの報告が多かった。男性が約6割, 女性が約4割で, 20歳代が全体の約半数, 30歳代が約3割を占め

た。

b)性器ヘルペスウイルス感染症

Genital herpetic infection

報告総数は 67 人(定点あたり 5.2)で、前年の 9 割、例年の 7 割、全国の 6 割と少なかった。宮崎市(9.3)、日向(9.0)保健所からの報告が多かった。男性が約 3 割、女性が約 7 割で、30 歳代が全体の約 4 割、20 歳代が約 2 割を占めた。

e)尖圭コンジローマ Condyloma acuminatum

報告総数は 36 人(定点あたり 2.8)で、前年の 9 割、例年の 8 割、全国の半数であった。宮崎市(7.0)保健所からの報告が多かった。男性が約 4 割、女性が約 6 割で、20 歳代が全体の約 4 割、30 歳代・40 歳代がそれぞれ約 2 割を占めた。

d)淋菌感染症 Gonorrhoea

報告総数は 115 人(定点あたり 8.9)で、前年の 9 割、例年及び全国の 8 割と少なかった。都城(15.5)、延岡(15.0)保健所からの報告が多かった。男性が約 8 割、女性が約 2 割で、20 歳代が全体の約 4 割、30 歳代が全体の約 3 割を占めた。

e)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* infection

報告総数は 347 人(定点あたり 49.6)で、前年の 1.2 倍、例年及び全国と同程度であった。70 歳以上が全体の約 6 割、60 歳代が約 2 割を占めた。

f)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

Penicillin-resistant *Streptococcus pneumoniae* infection

報告総数は 67 人(定点あたり 9.6)で、前年の半数、例年の 7 割、全国と同程度であった。4 歳以下が全体の約 6 割を占めた。

g)薬剤耐性緑膿菌感染症

Multidrug-resistant *Pseudomonas aeruginosa* infection

報告総数は 11 人(定点あたり 1.6)で、前年の 5.5 倍、例年の 1.6 倍、全国の 1.5 倍であった。70 歳以上が 10 人、60 歳代が 1 人であった。

h)薬剤耐性アシネトバクター感染症

Multidrug-resistant *Acinetobacter* infection

報告はなかった。平成 23 年 2 月 1 日から定点把握対象疾患(月報告対象)に追加された。

まとめと考察

全数把握対象疾患のうち、結核は県内全域で 1 歳から 90 歳代まで幅広い年齢層で報告されたが、60 歳以上の発症数が約 7 割と多かった。チクングニア熱は海外での感染例で、県内初の報告であった。後天性免疫不全症候群は平成 11 年以降最も報告数が多かった。全数把握対象疾患の報告総数は昨年と比較し約 100 例増加し、年によって増減はあるものの、増加傾向にある。

定点把握疾患のインフルエンザと小児科対象疾患の報告総数は、前年の 103%、例年の 110%、全国の 158%と多かった。疾患別にみると伝染性紅斑、手足口病、ヘルパンギーナの報告が多く、流行の年であった。

眼科疾患の流行性角結膜炎は、前年の 75%と減少したが、例年の 134%、全国の 384%と多い状況である。

基幹定点報告疾患のマイコプラズマ肺炎は、全国的に例年より流行していた。本県でも、前年の約 14 倍、例年の 1.6 倍と多かったが、全国の約 3 割であった。

性感染症の報告総数は、前年の 93%、例年の 77%、全国の 80%と少なかった。年齢別では、20 歳代前半から 30 歳代の報告が多くなっている。

今年の調査結果から、流行発生時期のずれや、他の地域と異なる流行状況を示す疾患があることも確認され、地域的な発生動向調査の重要性が示された。今後も引き続きデータの集積を行い感染症の発生動向に注意していくとともに、適切な情報の提供と感染予防への啓発は若年齢層及び乳幼児を持つ保護者を中心に行う必要がある。

(備考)

感染症発生動向調査事業は、患者情報と病原体情報から構成されており、当所においては後者は微生物部において情報が得られている。

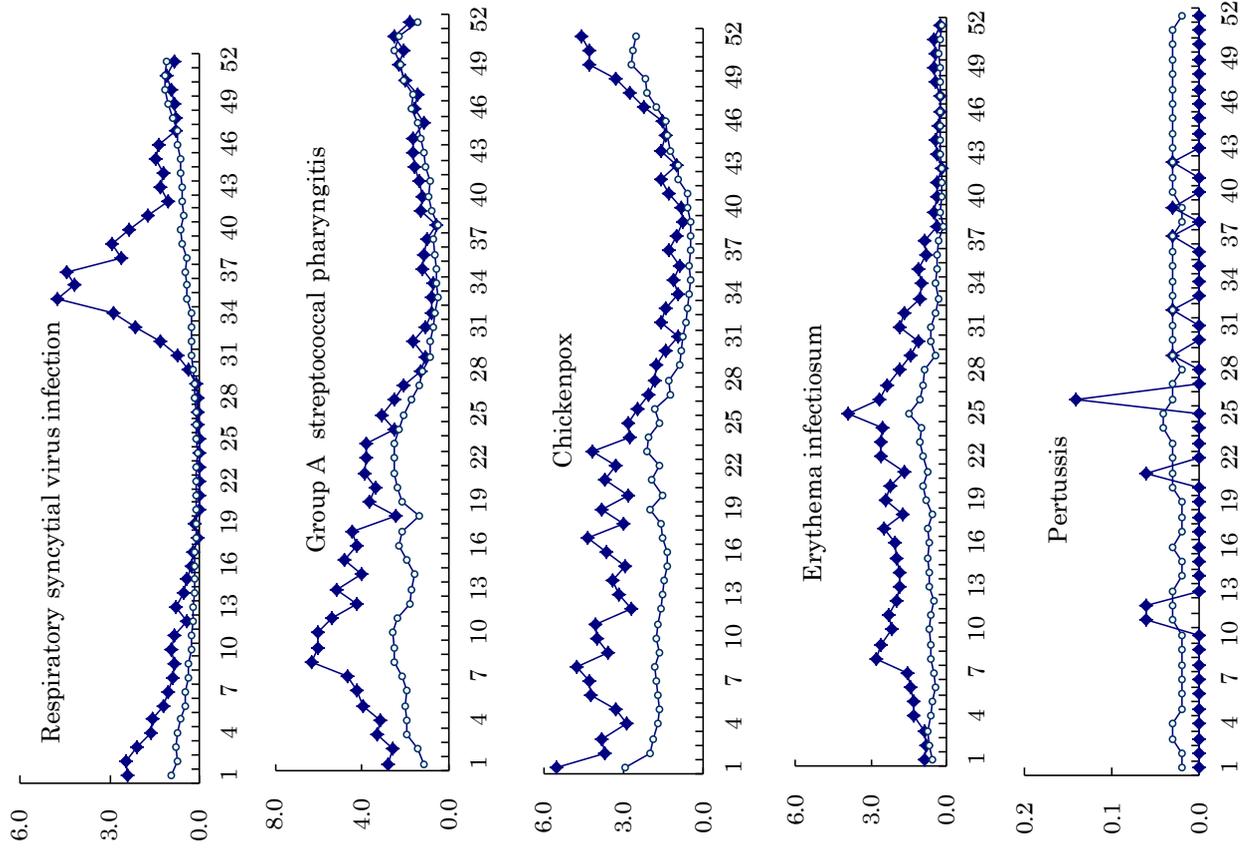
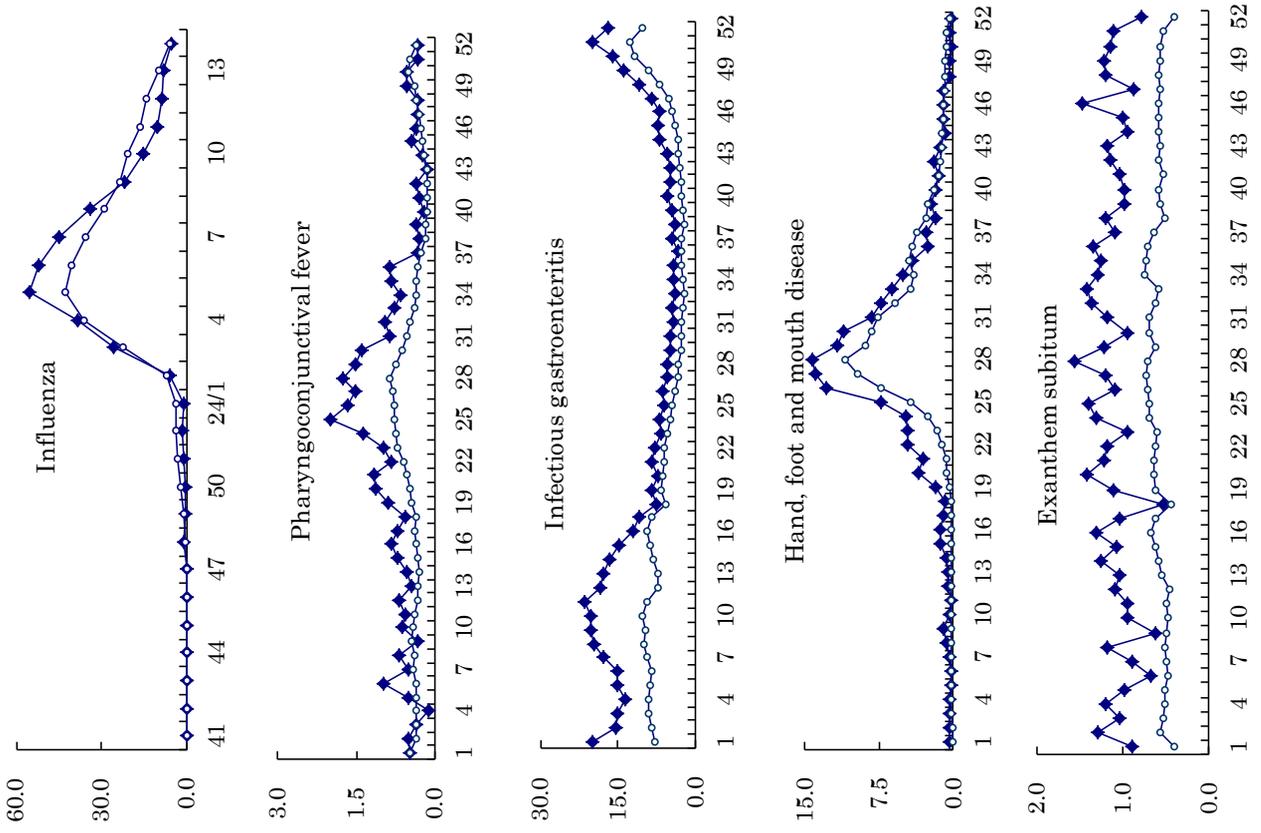
Table 1 The number of the sentinel clinics and hospitals by the health center

Health center	Number of the sentinel clinics and hospitals				
	Influenza disease	Pediatric diseases	Ophthalmic diseases	Diseases reported from specially-designated sentinel clinics	Sexually-transmitted disease
Miyazaki-city	16	10	3	1	4
Miyakonojo	10	6	2	1	2
Nobeoka	7	4	1	1	2
Nichinan	5	3		1	1
Kobayashi	5	3		1	1
Takanabe	6	4		1	2
Takachiho	2	1			
Hyuga	6	4		1	1
Chuo	2	1			
total	59	36	6	7	13

Table 2 Summary of incidence of the category V diseases in Miyazaki prefecture.

Disease name	Number of the reports	Number of the reports per a sentinel	Age distribution		Ratio※ (%)	The ratio against Miyazaki (2010) (%)		The ratio with average of the past five years (%)		The ratio against Japan (2011) (%)	
			Major age group	Ratio※ (%)		Miyazaki (2010) (%)	average of the past five years (%)	Japan (2011) (%)			
Influenza	19511	330.7	<10	64	96	91	103				
Respiratory syncytial virus infection	2202	61.2	≤2	92	81	139	270				
Pharyngoconjunctival fever	1311	36.4	1-4	69	142	116	172				
Group A streptococcal pharyngitis	5101	141.7	3-7	65	180	134	167				
Infectious gastroenteritis	19295	536.0	1-3	42	81	90	171				
Chickenpox	5059	140.5	1-4	76	89	98	184				
Hand, foot and mouth disease	5563	154.5	1-3	74	149	186	139				
Erythema infectiosum	2626	72.9	3-6	56	625	535	263				
Exanthem subitum	2067	57.4	6M-1	93	96	96	192				
Pertussis	17	0.5	<10	71	43	15	34				
Herpangina	3350	93.1	6M-3	79	177	156	210				
Mumps	3887	108.0	2-6	70	97	132	247				
Acute hemorrhagic conjunctivitis	0	0.0	-	-	-	-	-				
Epidemic keratoconjunctivitis	726	121.0	20's-40's	52	75	119	385				
Bacterial meningitis	3	0.4	≤5	21	75	30	36				
Aseptic meningitis	15	2.1	0	67	115	54	94				
Mycoplasma pneumoniae	69	9.9	<15	90	1380	163	27				
Chlamydial pneumonia	11	1.6	<10	45	157	169	110				
Genital chlamydial infection	314	24.2	20's-30's	72	97	80	91				
Genital herpetic infection	67	5.2	20's-30's	60	86	67	60				
Condyloma acuminatum	36	2.8	20's	36	90	82	51				
Gonorrhea	115	8.9	20's-30's	70	89	76	83				
Methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> infection	347	49.6	≥70	59	115	99	100				
Penicillin-resistant <i>Streptococcus pneumoniae</i> infection	67	9.6	≤4	63	48	71	97				
Multidrug-resistant <i>Pseudomonas aeruginosa</i> infection	11	1.6	≥70	91	550	157	154				
<u>Multidrug-resistant <i>Acinetobacter</i> infection</u>	0	0.0	-	-	-	-	-				

※ Ratio for the number of all report.



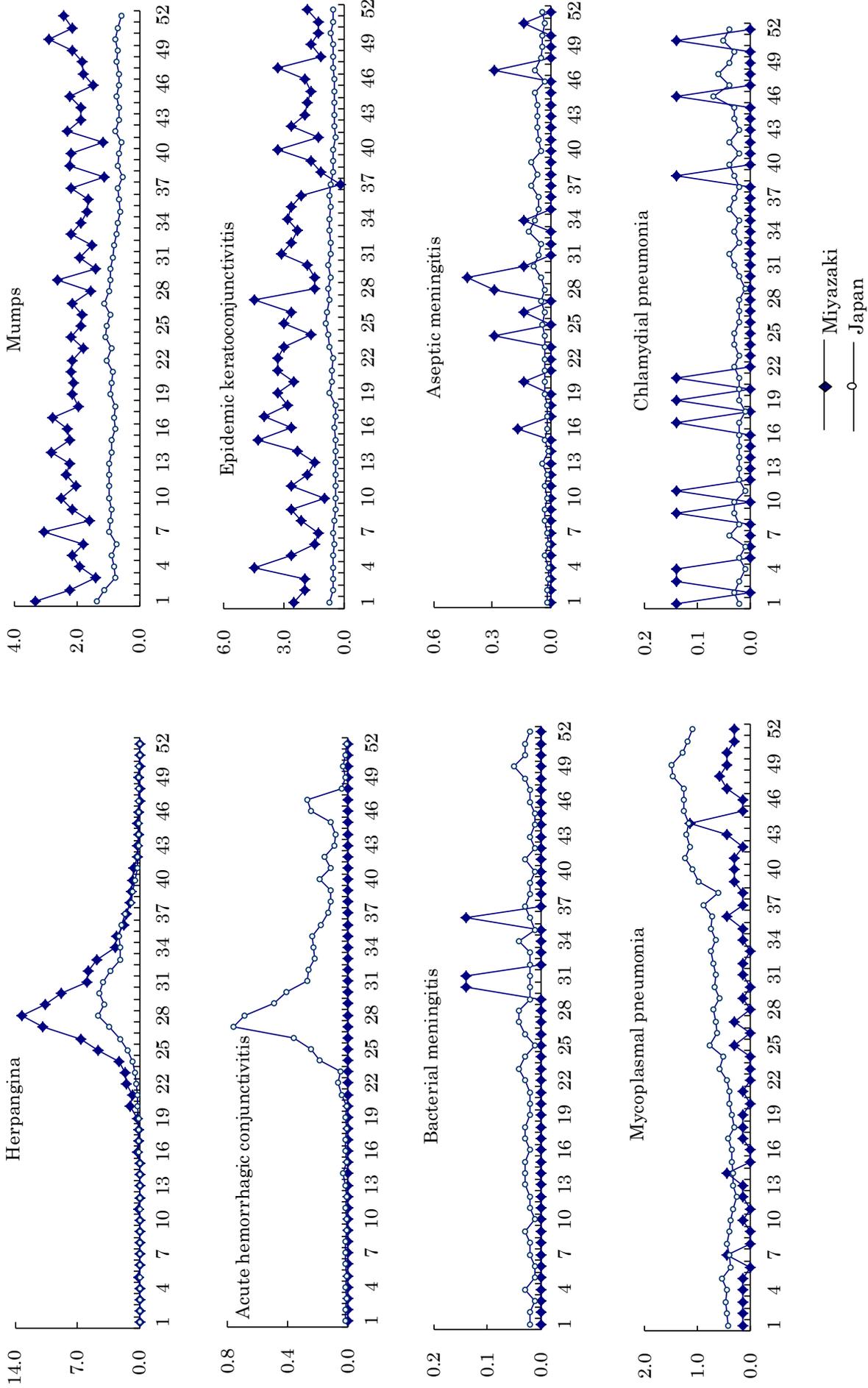


Fig.1 Weekly reports of category V Influenza, Pediatrics diseases and Diseases reported from specially-designated sentinel clinics.